

意見書案第4号

75歳以上の医療費窓口負担の2割化に反対する意見書

上記の意見書を次のとおり提出する。

令和3年3月23日提出

提出者
向日市議会議員 山田千枝子

賛成者
向日市議会議員 丹野直次
〃 杉谷伸夫
〃 飛鳥井佳子

75歳以上の医療費窓口負担の2割化に反対する意見書

菅政権が今国会で成立を狙う医療法案は、コロナ禍のもとで医療の基盤と高齢者の安心を崩す重大問題である。

「この時期に2割負担を宣言する政府の冷酷さに唾然とした」との声が出ている。医療制度改定一括法案に盛り込まれているのが、75歳以上が支払う原則1割の医療費窓口負担に2割負担を導入するものである。2022年度後半から導入するものであり、コロナ禍と高齢者の貧困化でいまでも深刻な受診抑制をいっそう加速させるものである。

窓口2割化の対象は、単身で「年収200万円以上」、どちらも75歳以上の夫妻で「年収320万円以上」の世帯の計約370万人である。単身で「年収383万円以上」、夫妻で「年収520万円以上」の世帯は「現役並み所得」だとして、すでに3割負担となっている。

一人当たりの平均窓口負担は年間で3万4千円増える。外来だけで7万円を超える負担増となるケースもありえる。「配慮措置」を政令で3年間設けるが、それでも平均年2万6千円の負担増である。負担を苦にした受診抑制で重症化や手遅れに至る深刻な事例が後を絶たない。こうした中での負担増計画である。

よって、高齢者の生存権が脅かされることになる75歳以上の医療費自己負担の2割化は中止するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和3年3月23日

京都府向日市議会